

I N D E X

- ・サヒメルイベント情報
- ・特集『野生動物の足跡を探せ！』
- ・お知らせ

※携帯電話でのメール受信の場合、本文のレイアウトがくずれている可能性があります。予めご了承ください。

□

■ □ サヒメルイベント情報

・「天文教室 天体画像撮影 上級編」

クーデ望遠鏡で天体写真を撮影する一眼レフコースと 60 cm 反射望遠鏡と自然館の冷却 CCD カメラによる撮影と画像処理を体験する冷却 CCD コースの 2 コースがあります。

日程：平成 25 年 3 月 10 日（日） 19：00～21：00

http://nature-sanbe.jp/sahimel/event/event_01.htm#link

・「風力発電工作 いちばん電気をつくれる羽を作ろう!!」

風力発電のしくみを学ぶイベントです。風力発電機を作って、本当に風の力で電気をおこせるか実験します。またオリジナルの羽を作って、どれだけ電気がおきるか競い合います！

日程：平成 25 年 3 月 16 日（土） 13：30～15：30

http://nature-sanbe.jp/sahimel/event/event_01.htm#link

・学校向け自然体験プログラム

サヒメルでは、学校向けにさまざまな自然体験学習プログラムを準備しています。理科、生活科の学習を深めるものから、自然を感じるゲームなど幅広くご提供します。（例：天体観察、季節の生きもの観察、三瓶火山の地層観察など）詳しくは、お問合せ、ご相談ください。

http://nature-sanbe.jp/sahimel/use/study_01.htm

イベントに関する申込み・お問い合わせ：0854-86-0500（三瓶自然館）



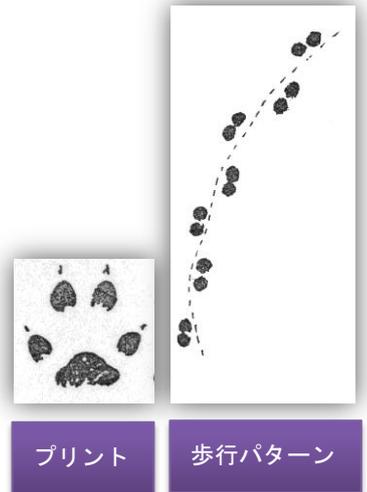
■ □ 特集 『動物の足跡を探せ！』

積雪シーズンが到来し、サヒメル周辺はすっかり雪化粧。雪が積もると、見かけやすくなるものがあります。野生動物たちの「足跡」です。私たちにとって身近な野生動物といえば、タヌキ、イノシシ、テンやキツネなどが挙げられますが、実は、これらの動物たちはただ単に足跡の形が異なるだけではありません。今号では動物たちの足跡から読み取れるおもしろい特徴を紹介します。

○動物の足跡に関する基礎知識

☆「プリント」と「歩行パターン」

足跡には2通りの呼び方があります。前後左右にかかわらず、足跡単体は「プリント」と呼び、つながっている一連の、または一歩分（1ストローク）を指す場合は「歩行パターン」と呼びます。プリントだけでは特定できなくても、歩行パターンにその種の特徴が現れているために特定できることがあります。そのため、動物の足跡を見つけたら、定規など、大きさが測れるものと一緒にプリント・歩行パターンの両方を撮影・記録することをお忘れなく！



☆歩き方のタイプ

・指行性（しこうせい）

肉球のある指先で歩くタイプです。タヌキやネコなど、イヌ科やネコ科の動物が該当します。基本的に4つの指跡が残ります。

・蹠行性（しょこうせい）

人間と同じように、かかとまでべったりつけて歩くタイプを指します。サル、クマ、テン、イタチなどがこのタイプです。指行性とは異なり、5本指の跡が残ります。

・蹄行性（ていこうせい）

イノシシやシカなど、ヒヅメをもつタイプ。ヒヅメの跡が残るのが他の動物との大きな違いです。

次に、指行性のキツネ、タヌキ、蹠行性のテン、蹄行性のイノシシの残す足跡の具体的な特徴について簡単に紹介します。

○野山のハンター「キツネ」



←臭いをかぎまわるキツネ

キツネの足跡。ほぼ一直線に
続き、前足跡に後ろ足を重ね
て歩いているので、タヌキな
どよりも足跡の数は少ない。

→



イヌの足跡とよく似た直径5センチくらいの円い足跡がほぼ一直線になっているのは、キツネが歩いた跡です。胸幅が狭く、前足跡の上に後ろ足を重ねて歩くため、足跡が一直線に残るのです。この歩き方を「ハンター歩き」といいます。

こうすることで、不規則に足跡を残すよりも他の動物に気付かれにくくなります。キツネのような優秀なハンターは、できるだけ獲物に気付かれないように、歩行にも気を遣っているのです。

○迷い足の「タヌキ」



←水場に来たタヌキ

タヌキの足跡。キツネに比べ
ると、ジグザグになっている
のがわかる。→



タヌキの足跡は直径4センチくらいで、ネコのそれとよく似ています。ただしネコは、蹠球（しょきゅう：手のひらにあたる、一番大きな肉球）が台形ですが、タヌキはおにぎりのような三角形という点が異なります。

歩行パターンは、キツネのように一直線に残ることはなく、ジグザグになります。これは、キツネに比べて肩幅が広いという身体的特徴と、ミミズや果実などの食べ物を探し求めて、あっちへ行ったりこっちへ行ったりする、雑食性の動物特有の性格に起因します。また、タヌキはキツネに比べて足が短いため、少し雪の深いところだとおなかをこすった跡がつきます。このスマートでないところに親近感を覚える人も多いとか。

○木登りもできるオールラウンダー「テン」



←冬毛のテン。(夏には茶色い毛に生え替わる)

テンの足跡。左右の足をそろえてジャンプするように歩いた跡。→



サヒメルのマスコットキャラクター「テンピー」のモデルの動物であり、三瓶でもよく足跡が見られます。足跡は直径3～4センチ程度で、ネコと少し似ていますが、テンは5本指で、ネコは4本指。指の数が異なるので、よく見ると分かります。またテンは、左右の足をそろえて「ぴょんぴょん」とジャンプするように、歩くことが多いため、2つの足跡が並んでつくという特徴も。(場所や歩行速度によって歩き方が変わる場合もあります。)

さらに、テンは木登りも得意です。左右並んだ独特の足跡が木の手前で消えていたら、テンが軽快に木を登っている様子が目に浮かびそうです。

○里山の重機「イノシシ」



←イノシシの雄。雌は子どもを連れていることが多い。

イノシシの足跡。右側に2つ副蹄の跡がついている。→



イノシシは、これまで紹介した動物と異なり、ヒヅメをもつ蹄行性の動物です。足跡は直径7～8センチくらいで、前側に大きなヒヅメ（主蹄）の跡が残り、その後ろ側に小さなヒヅメ（副蹄）の跡が残るという特徴があります。これは、イノシシの副蹄がシカなど他の蹄行性の動物と違って、より地面に近く、低い位置についているからです。この副蹄が、ぬかるんだ場所で歩くときに滑り止めの役割を果たすと考えられています。

野山や田畑にこのヒヅメの跡に加えて、地面に重機で派手に掘り返したような痕跡があれば（イノシシは丈夫な鼻で地面を掘り、食べ物を探します）、イノシシとみて間違いないでしょう。



↑イノシシの歩いた跡。ぬかるんだところで見つかる。

以上に紹介したような、足跡や歩き方のパターンの違いを知っていれば、なんとなく観察するよりも動物の性格や生態がみえてきて、とても楽しくなります。

雪上に限らず、田畑や河原など、色んな場所に動物たちの足跡は残っているので、ぜひ、フィールドに飛び出して、動物たちの足跡を探してみてください！

もしかしたら、実際に歩いている動物に遭遇する、なんてことも！？

- ・参考文献『哺乳類のフィールドサイン観察ガイド』（文一総合出版 2011）
（サヒメル理科ネット事務局 林 知洋）



■ □ お知らせ

- ・メーリングリスト（ML）について

下記のメールアドレスにメールを送信していただくと、会員の皆様、サヒメルの研究員にメールが届くようになっています。

子ども達に好評だった教材の紹介など、情報共有にぜひご活用ください！

rikanet@nature-sanbe.jp

- ・会員募集

サヒメル理科ネットでは随時会員を募集しています。

同僚の先生方、理科教育に興味をお持ちの方にお声かけください。

〈申込方法〉

サヒメル理科ネット HP の参加申込フォームからの申込

https://ssl.coressl.jp/rikanet.nature-sanbe.jp/ssl/?page_id=12

※電話やメールでサヒメルに直接ご連絡いただくことも可能です。

下記連絡先までお問い合わせ、お申し込みください。

- ・三瓶自然館サヒメルホームページ

<http://nature-sanbe.jp/sahimel/>



※メルマガの配信停止を希望される方は下記連絡先までお問い合わせください。

三瓶自然館 サヒメル理科ネット事務局 向原・林

TEL：0854-86-0500 FAX：0854-86-0501

E-mail：rikaoffice@nature-sanbe.jp

この事業は JST ネットワーク形成先進的科学館連携型の支援を受けています